

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2022. No.379 ²

ハンガーゼロ・ニュース

楽しみながら学習する
ルワンダのチャイルド

1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています

特集 Child Supporter

チャイルドサポーター

Contents

「一人ひとりが尊く大切な存在」 P.2

チャイルドサポーター支援国の活動 P.3-5

- ウガンダ ●バングラデシュ
- ボリビア ●フィリピン

家族の Story カンボジアのオムさん P.6

チャイルドサポーターの広場 P.7



フィリピン台風復興支援を開始 P.8

「一人ひとりが尊く 大切な存在」



支援地のチャイルドから届いた手紙を翻訳している時に「わたしのために祈ってほしい」や「家族の健康のために祈ってほしい」という言葉をよく目にします。

「わたしのために祈ってほしい」という一行には、わたしやぼくの健康や生活が守られるように祈ってほしいというメッセージが込められています。

届いた手紙から、日本の私たちが当たり前と思っていることが、現地では決して当たり前ではないことが伺えます。例えばボリビアでは、子どもの命よりも生活を支える家畜のほうが高価であると見なす保護者がいて、そのために子どもの健康や安全が後まわしにされています。バングラデシュでは早期に娘を結婚させる児童婚の問題が今も残っており、女子は単なる労働力であり、教育を受けさせる必要がないと考える保護者がいます。

チャイルドサポーター活動は、貧困地域に住む子どもたちの環境が改善されるようにそれぞれの国や地域の実情に合わせて教育、安全な食料の確保、生計向上、水、保健衛生、価値観の変革、防災などの分野で活動を続けています。

子どもたち一人ひとりが尊く大切な存在であることを子どもたちの家族、そして地域の人々に知ってもらえるように、現地スタッフが様々な活動の中で密接に関わりを持ちながら励まし、最終的には地域が貧困から卒業できることを目指しています。

今年から新しくバングラデシュのジリム集落(チャパイナワブガンジ郡)で新たに活動が開始されました。サポーターさんと出会えることを現地の子どもたちが心待ちにしています。サポーターになって頂いて、子どもたちが愛されている大切な存在であることを伝えていただければ幸いです。

子どもたちへの応援を始めませんか？



Child Supporter
チャイルドサポーター

サポートチャイルド 1,825人 (2022年1月現在)



**337人の
子どもたちが
サポーターさん
を待っています**



登録はこちら▼



367人
ウガンダ

100人
バングラデシュ

379人
カンボジア

296人
フィリピン

201人
ルワンダ

482人
ボリビア

教育

【ウガンダ】

技術習得の訓練

子どもたちが5つの学校で、収入向上のために液体石鹼と再利用可能なマスクの作り方のトレーニングを受けました。そのうち20名(女子3名、男子17名)が、現地にある材料で液体石鹼と再利用可能なマスクや生理用パッドを作りました。子ども1人あたり1日に少なくとも2,000シリング(約64円)の収入を得ることができるようになり、貯蓄が増えています。また高等学校と専門学校の生徒81人(女子45名、男子36名)は、学費支援を受けながら、美容、溶接、オートバイの修理などの知識と技術を習得することができました。

30名の青年(写真⑥女性25名、男性5名)が、きのこ栽培の訓練を受けて小さな庭で栽培を始めました。まだ収入を得るには至っていませんが、青年たちはこの冒険事業に胸を躍らせており、毎回せっせと水やりをしています。トレーニングの最後には、カウンセリングとガイダンスの講義を受けました。これは若者とスタッフ間の関係を近づけ、若者がこれまで以上に心を開くようになってコミュニケーションを取ることが容易になりました。



40名の保護者(男性4名、女性36名)がCash For Work(労働をして賃金を受け取る自立支援)に参加して450枚のマスクを作りました。また最も脆弱な家庭の青年26名(男性13名、女性13名)が、高齢者、未亡人、男やもめ、障がい者の家族のための簡易手洗い設備作りに参加しました。青年たちは全部で234の簡易手洗い設備をさまざまな家に設置しました。

学校給食プログラムのサポート

マガダとイジランゴビでは、学校が主体性をもって学校給食を促進させるために、土地を用意して下さった4校にトウモロコシと豆の種子を提供(写真⑦)しました。最も弱い環境に置かれている家庭の保護者80名が収入のサポートを目的としたCash For Workの働き手として選ばれ、学校の畑での植え付け、除草、収穫の作業を行いました。8エーカーの学校菜園(写真⑧)から合計700kgのトウモロコシが学校給食プロジェクトのために収穫されました。これら保護者に支払われた賃金は、母親9名が医療費を賄うために、46名が家族の食料を買うために、12名が鶏の飼育に投資し13名は貯金をするために用いました。



Child Supporter
チャイルドサポーター

子どもを支援する

支援地域の特定の子どもとつながり、地域で行われる活動をご支援いただけます。あなたと出会い、応援を受ける子どもは自分が愛される大切な存在であることに希望を抱き、地域を変えるひとりへと成長していきます。

月々4,000円

子ども1人を支援することができます。

2つの支援方法

活動を支援する

子どもたちが暮らす地域で行われる様々な活動をご支援いただけます。地域に住む人々がそれぞれの役割を果たし、子どもを取り巻く環境の改善と質の向上を目指します。

1,000円～

月々または自由なタイミングで支援できます。



ウェブサイトからも
お申し込みできます

お電話での問い合わせはCS事務局へ 直通TEL072-920-2226



母親たちのサークルグループの様子

公衆衛生基準を満たした11の深井戸を地域内に設置、15のトイレ（10世帯と学校5校）も設置してトイレを使用する重要性について人々に伝えました。FHはまた貯蓄グループのメンバーに、トイレを使用するように定期的に促してきました。その成果がみられ、メンバーの衛生的なトイレの使用率は過去5年間の推移をみても徐々に増えてきています。2017年の使用率は57%でしたが、2021年には82%にまで達しました。



地域開発を村落開発委員会に委ねる

FHはマチュパラで貧困をなくすために、最も脆弱な家庭、女性、子どもに焦点を当てながら、健康、栄養、水と衛生プログラム、教育、生計、災害リスク軽減、指導者育成などに関する一連の活動によって包括的な地域開発を行ってきました。地域の市民社会、地元政府、宗教指導者、政治家などにも関わってもらって行ったこの参加型アプローチは、地域の人々に受け入れられました。

これまでのFHの歩みはいつも順調に進んだわけではありません。新型コロナの感染拡大や洪水、予期せぬ政治的干渉など、人為的および自然災害にも直面しました。この包括的地域開発がどれだけ地域に影響を与えたか



今の時点で結論づけることはできませんが、それぞれの活動分野の実践レベルを分析し評価すると、収入改善、水と衛生プログラム、女性の自立、栄養状態の改善においては、成功したケースが数々みられます。いくつかの課題も残されていますが、FHは活動を地域に設立された村落開発組合に委ねながら、2021年12月撤退後も必要に応じて相談やアドバイスを行っていきます。

保健

FH= 国際飢餓対策機構

【バングラデシュ】

健康に過ごすための生活習慣

母親が保健について学び、その内120名がリーダーとして育成されました。リーダーになった母親は、どのようにして保健の知識を地域に広めていけばいいか、その方法についてトレーニングを受けました。母親リーダーたちは近隣に住む720名のサークルグループに所属している母親たちに、母親と新生児のために必要なケア、基本的な栄養素の摂取方法と病気の子どもに与える補完的な食事とケア、健康に過ごすための生活習慣、呼吸器感染症と完全母乳育児などについて伝えました。

母親のリーダーは、他の母親たちに気づきを与えただけでなく、定期的に家を訪問して、学んだことを続けられるようフォローをしました。この取り組みによって近隣のサークルグループの母親のほとんどが、健康に過ごすための生活習慣の実践を始めました。また授乳中の母親をFHスタッフが調査したところ、88%の母親が母乳育児について十分に理解しており、実践していました。一方9%の母親は概念を理解していましたが適切に実践しておらず、3%の母親は全く理解していない、あるいはあまり理解できていないことがわかりました。この分析から、割合的には十分な成果が得られたと言えますが、100%の母親が完全母乳を実施できるように目指す必要があります。

トイレ使用率が飛躍的に上昇

マチュパラでは、水と衛生の問題がこれまで人々の健康を脅かしてきました。人々が池や水路などの汚れた水を飲んでいたので、また極めて貧しい家族の多くは衛生的なトイレを持っていないため、野外で排泄をして衛生環境を悪化させてきました。この課題に対処するためにFHは、

「チャイルドサポーター」では子どもたちを取り巻く家族、地域が貧困から抜け出すことができるように支援をしています。

※支援方法は「活動を支援する」と「子どもを支援する」の2つがあります。(P.3にご案内)



農 業

【ボリビア】

野菜・果物の生産で収入が向上

農業活動は通常通り行われましたが、新型コロナの感染拡大により農業従事者の中にはコロナ感染を恐れて、作物の売買のために市場に出かけることを控える人もいました。

屋外で野菜を生産している家族は、家の近くの50㎡の土地に10～14種類の野菜を植えています。それぞれの村で10名ほどの母親たちがこの活動に参加し、すべての村を合わせると50名が取り組んでいます。



トウモロコシの種が10家族に提供され順調に育て収穫もよく、成果が見られました。

20家族が半日陰の土地で野菜を生産しています。動物や日射の被害から野菜が守られるという利点はありませんが、管理に技術が求められます。50家族に野菜の種子が渡され、30家族が様々な野菜の栽培方法について指導を受けました。またパイアの生産に興味があり活動に参加する意欲のある20名のグループが作られて、今後活動を開始していきます。

いくつかの村では灌漑が設置され、10家族が技術や管理面の指導を受けることができました。今後は委員会

を設立してこの灌漑システムの維持管理のためのルールを作り、水の使用料について人々に理解を求めていく必要があります。

鶏などの飼育は、卵や肉を得られることから栄養改善につながっていますので、鶏がFHから提供され10家族がこの活動に取り組みました。

【フィリピン】

組合が軌道に乗るように支援

マトノグとスラの2カ所で発足した組合が軌道に乗るようサポートを行いました。

スラは島で、孤立した地域であり災害が発生しやすい所なので、地域で常に食料が入手できる方法を確保することが重要です。2021年1月にスラで結成された農水産業協会は、小売店を設けて住民が本島に出向いて小売市場で商品を購入しなくても、食料が手に入るように助けます。組合には16名のメンバーが所属し、生計手段として果物と野菜の小売りと魚の干物の生産を企画運営しています。(写真⑤)

マトノグでは2021年1月に20名のメンバーで、農起業家協会が結成されました。貯蓄グループから協会に発展し、正式な協会として運営するために地方自治体の認定を受けました。収入を得ることができるようになってビジネスの拡大が期待されます。

FH ビコールと2つのCBO(地域を基盤とした組織)の間の覚書が署名されました。この2つのCBOは、必要な資材と小売店の建設にかかる人件費を負担しました。



私たちロングライフグループは、ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。



Health & Natural Beauty

ロングライフグループ



0120-550-294

受付時間
9:00~18:00
年中無休

大阪本社 / 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社 / 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階
ロングライフグループ拠点: 北海道 / 埼玉 / 東京 / 神奈川 / 千葉 / 静岡 / 愛知 / 大阪 / 兵庫 / 京都 / 大分 / 沖縄 / 中国 (青島) / 韓国 / インドネシア (ジャカルタ)



ロングライフタウン寝屋川公園 フィレンツェの丘

家族の
Story
ストーリー

オムさん(40)は、5歳から16歳の5人の子どもを一人で育てています。彼女は5年前に形成された村の貯蓄グループのメンバーになり、農業や食料品の販売、鶏やアヒルなどを飼育しています。オムさんに聞きました。



■ カンボジア

困難とひたむきに向き合うオムさん

自分と子どもの将来に希望を持っています

FHが来る前の状況

FHカンボジアが私の地域に来て活動を始める前は、子どもたちには十分な食べ物がなく、よく病気になりました。年に7~8ヵ月はお米が不足していました。私は田んぼで作物を育て、小動物も飼って私一人で家族を養い、休む暇もなく働いていましたが、十分ではありませんでした。

私は2人の息子を抱えた状態で結婚し、3人目の息子の妊娠中に夫が家を出ていきました。次に結婚した当時、3男は7歳でその後、娘も与えられましたが、5男の妊娠中に、その夫にも捨てられました。私は長男と次男を退学させて弟や妹の面倒を見させ、家計を支えるために働いてもらったりもしていました。彼らは本当は学校を辞めたくなかったと思います。

FHのサポートは

2016年にFHのスタッフと村のリーダーたちが貯蓄グループのメンバーを募集していることを知り、活動に参加して保健衛生、家畜の飼育や家庭菜園などについての訓練を受けました。

変化した生活

貯蓄グループで貯蓄の方法を覚え、食料品を売る小さなビジネスを始めました。そのビジネスは成功して1日に30万~38万リエル(75~95米ドル)を得ることができました。貯めたお金で木材や材料を購入して、2023年には幅6m、長さ10mの家を建てることにしています。今日までに6000万リエル(15000米ドル)の貯金ことができました。

収入は子どもの勉強をサポートしたりするために預金しています。衛生管理や綺麗な水を飲む事などを学んで実践した結果、私の家族、特に子どもたちは健康になりました。

地域の変化

FHが私の地域で活動し始めてから、ほとんどの家庭が衛生管理をし、水を濾過して飲むようになり、地域が一つにまとまりました。また家庭にトイレがあり、動物を飼ったり、生産性の高い作物を作ったりする技術を身につけることができました。また貯蓄グループと貸付のおかげで、お金を貯めることができるようになりました。



FHのスタッフが家庭を訪問して私たちに励ましてくれたことやサポーターさんに感謝しています。コロナ禍の間、鶏肉、貯水タンク、食料品(米、醤油、魚の缶詰、油など)を提供してくれたことにも感謝しています。

私は自分と子どもたちの将来に希望を持っています。子どもたちを学校に通わせ、必要なものを全て提供できるように頑張ります。将来もっと困難なことに直面してもあきらめません。



コロナ感染から守る「緊急救援募金」に応援をお願いします

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。
ウェブサイト <https://www.jifh.org> ※ハンガーゼロで検索又は右QRコードから
郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 ※記入欄に「緊急救援募金」と明記
募金集計: 12月末日現在で約1,268万円、皆さまの応援を心より感謝いたします。



スマホから募金ページに



ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

チャリティを企画して募金協力の輪を広げる

チャリティ・フットサルやボウリングで募金活動を続けてくださっている「立ち飲みやいどや」(大阪市)の李さんが、昨年末に「チャリティ・ボッチャ」を企画して、参加者やお客さんらの協力で、募金45万円を寄せていただきました。募金はコンゴ民主共和国での子どもたちへの給食活動などに用います。



またロングライフホールディングは10月に有志によるクラブ活動「エルラボ」で、社員からの寄贈品を大阪市内で開催されたフリーマーケットに出展(写真⑤)して売上金を募金協力してくださいました。

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL 379号

<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □(1000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □(500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在...5152口

HOLPFI
フィリピン台風
パラワン島住民
復興支援を開始
～募金受付中～



ハンガーゼロは、昨年12月16日から17日にかけてフィリピン中部を直撃した台風22号の被災地の一つパラワン島ロス県で現地住民(110世帯)の復興支援を始めました。

支援内容は、現地パートナーのハンズ・オブ・ラブ・フィリピン(酒井保スタッフ)を通じて①被災家屋の補修(40棟)②現地住民の集会場の修理③復興までの生活面でのサポート(主に食料支援)など。



活動は、被災地区にあるキリスト教会のムンス・ベー牧師(ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン理事)によって進められ、住民に家屋の補修資材(屋根や壁板、釘など)の提供を行うほか大工1名も現地に派遣します。さらに家屋の補修が終わるまでの2ヵ月前後の間、必要に応じて食料提供なども実施して、住民たちの復興を後押しするために生活面のサポートをすることも検討しています。

【緊急募金の送金方法】

緊急募金は、郵便振替又はウェブサイトから直接クレジットカード決済が利用できます。

●郵便振替 00170-9-68590

日本国際飢餓対策機構

記入欄に、フィリピン台風と明記

●募金目標：300万円

書き損じ「年賀はがき」で協力

書き損じた「年賀状」やポストに未投函のもの(書き込み、汚れのあるもの、私製ハガキは不可)、また消印のない「未使用切手」がありましたら、大阪事務所までお送りください。国内外の通信に用いさせていただきます。



感染拡大での勤務体制について

現在オミクロン株によるコロナ感染が全国規模で急拡大しているため、緊急事態宣言等が発出された場合には、各事務所で再びテレワーク勤務になることもございます。各種手続きでご不便をお掛けしますが、その場合はホームページ等で直ちにお知らせいたします。ご理解のほどよろしくお願いたします。

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター

●Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,290,464ポイント(円)のご協力(19,897件)がありました。Tポイント募金で検索。
●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたしません。

「チャイルドサポーター」では子どもたちを取り巻く家族、地域が貧困から抜け出すことができるように支援をしています。

※支援方法は「活動を支援する」と「子どもを支援する」の2つがあります。(P.3にご案内)



この作文は、奈良県天理市の『社会を明るくする運動』で優秀賞(市長賞)を贈られました。

小さなことでも

福住小学校6年生(奈良県)
堀内 花さん

私は、社会を明るくするには、みんな一人一人が自分のことだけではなく、誰かを手伝ってあげられることがないかを考えることが大切だと思います。私も、自分のことだけを考えることがたくさんありました。でも、家族や友達など、みんなのことを手伝うと、心がすっきりして、うれしい気持ちになりました。

私の父は、まずい国のみんなを助けたり、震災でこまっている人々を手伝ったりする仕事をしています。私が小さいころも、東日本大震災で生活することが難しい人々を、手伝いに行っていました。まずい国に行くと、みんなを助けたい気持ちもしていました。私も、父みたいに、だれかを助けることがないかなと、考えることもあります。

ある日、父が一枚の写真を見せてくれました。その写真は、マスクを買うお金がなくてマスクのかわりにキャベツにひもを結んだものをつけている人の写真でした。その時に、気づきました。私には当たり前のことでも、せつたいに当たり前ではないことを…。このようなことがおきないようにするには、どうすればいいのだろうと思いました。



天理高原マルシェに出展して飢餓啓発と募金活動をしました。
(赤いパーカーが花さん。お母さんと妹と弟と一緒に)

私は、三年生のころ、父にもらった貯金箱に、小さいお金を集めて貯めていました。そのお金の貯まった貯金箱を、父にわたしたら、まずい国に送ってくれました。いらなくなった歯ブラシを集めて、それをお金にして、まずい国に送ることもできます。私の家族は、いらなくなった歯ブラシを集めて、父が働いているNGO団体に送っています。父と母は、チャイルドサポーターになっています。

初めは、「知る」ということが大切です。次は「手伝う」です。そして、「だれかを手伝ってあげられることがないかを考える」ことも大切です。身のまわりのことで、大きいことではなくて、本当に小さいことでも、だれかを手伝ってあげられたら、社会は、ちょっとずつ良くなっていくと私は思います。

「わたしから始める。世界が変わる」。まずは始めるのは、「わたし」からです。

今、この時間も苦しんでいる人は、たくさんいます。まず、「知る」です。次は、「手伝う」です。「だれかを手伝ってあげられることがないかを考える」も大切です。身のまわりのことで、本当に小さなことでも、手伝えることがあれば、手伝ったら、ちょっとずつ社会が明るくなっていくと、私は思います。

小さなちいさなことでも、ぜひ変えてみませんか？



④世界食料デーのときは、手作りしおりを作成・販売して募金に協力。
⑤「いっしょだよ一人じゃないよだいじょうぶ」の織は天理市の青少年健全育成推進運動の標語募集に花さんが応募、市議会議長賞を受賞。

備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう

救缶鳥
Kyu-Can-Cho

皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！



食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



おいしさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4

TEL 0287-65-3351

パン・アキモト